

TEN

英語教師のための情報誌

Vol. 50
SPRING 2023

TEACHING ENGLISH NOW

特集

ロールプレイシートを活用した 話すこと[やり取り]の活動

01 Take Action! Talk ロールプレイシートを効果的に使った授業例
——生徒が即興で意見を伝え合う力を育む授業 谷口 友隆

連載

03 実践 NEW CROWN –わたしの授業紹介– 劉 崇治

05 明日の授業と評価をブラッシュアップするQ&A 工藤 洋路

06 Essay Empathetic Teachers Create an Atmosphere of Growth and Discovery Lucinda Okuyama

06 リクツで納得! 学校英文法の「文法」 この際お互いの関係をハッキリさせましょう 亘理 陽一

SANSEIDO

ロールプレイシートを活用した 話すこと[やり取り]の活動

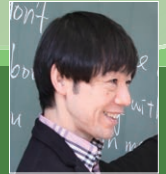
学習指導要領の改訂に伴い、以前の4技能から「話すこと[やり取り]」を追加した5領域になりました。

NEW CROWNのTake Action! Talkでは、言語の働きを整理し、

目的や場面、状況に応じて、即興で伝え合う力を養うことを目標としています。

本特集では、ロールプレイシートを活用した「話すこと[やり取り]」の活動について、

谷口友隆先生に実践例をご紹介します。



谷口 友隆

(相模原市立大野南中学校)

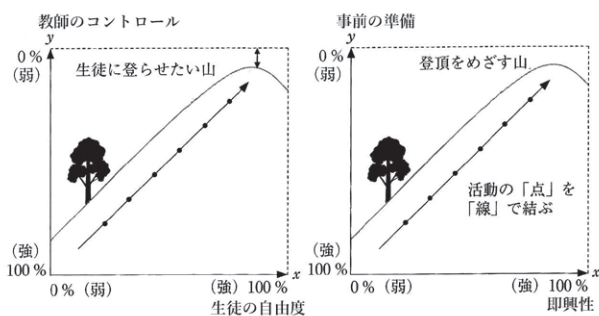
Take Action! Talk ロールプレイシートを効果的に使った授業例 — 生徒が即興で意見を伝え合う力を育む授業

1 はじめに

多くの中学校英語科の先生がたの悩みのひとつは、ディスカッションやディベートなど、生徒が即興で英語を使って意見を伝え合う活動を時間の限られた中でどのように展開したらよいかというものではないだろうか。『中学校学習指導要領 外国語』（平成29年告示）の目標（2）には、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う」とある。この力は一朝一夕に育成できるものではない。図1のようなイメージで、教科書の暗唱など「教師のコントロール」が強く「生徒の自由度」が低い活動から、オリジナルのスピーチやスキットの発表など「教師のコントロール」が弱く「生徒の自由度」が高い活動へと、徐々に移行していく必要がある。また、事前に準備をさせたいうでのスピーチだけではなく、即興のスピーチやディスカッションなど、即興的な言語活動を生徒の学習段階に合わせて取り入れていかなくてはならない。

本稿では、この段階的な指導の流れの中で、Take Action! Talkを効果的に活用する1つの指導実践例を提案していきたい。

〈図1 活動のグレーディングの観点〉



出典：高橋(2022:147)図3.6.1.

2 Take Action! Talkの位置づけ

Take Action! TalkのSkitにはそれぞれ目的や場面、状況が具体的に設定されており、それぞれの目的に合わせて即興でやりとり

する力を養うよう配置されている。巻末のロールプレイシートでは、生徒に異なる情報を与えて、双方が持っている情報に差がうまれるようになっており、相手が言ったことを聞き返したり、確認したりしながら、それまで学んだ英語を駆使して即興で会話し、伝達内容に意味のあるやりとりができるように作成されている。これまでの教科書の言語活動によく見られた「目標の文法事項を使ってみる活動」ではなく、生徒が自ら言語材料を選んで使用し、課題を解決することを第一義としている。図1の「生徒の自由度」と活動の「即興性」を高めつつも、Skitがあることにより、「教師のコントロール」をある程度効かせ、生徒に必要な最小限の準備をさせることもできるので、スローラーナーへの支援も行いやすい絶妙な活動となっている。以下に、このロールプレイシートを使った言語活動で、生徒が即興で意見を伝え合う力を育む授業例を示す。

3 Take Action! Talkの具体的な指導手順

今回はNEW CROWN 2, Take Action! Talk 6を取り上げる。ここでは、転校する友だち(まゆみ)へのプレゼントについて花とディナーが話している場面である。

① 教科書本文の口頭導入

- ・目的、場面、状況を生徒が理解する
- ・必要な語句や表現を導入、確認する

② 教科書本文のリスニング

- ・やりとりの内容を聞いて生徒が理解する

③ 教科書本文の理解の確認

- ・内容に関するQ&Aを行い、教科書を黙読する

④ 教科書本文の音読練習

- ・新語の発音練習と音読の練習をする
- ・必要な語句や表現の定着を目指して口頭練習する

⑤ ロールプレイシートを使った生徒同士の言語活動

- ・ペアやグループでロールプレイを行う

⑥ さらに自由度を上げたクリエイティブな言語活動

Take Action!

それもいい案だとと思うけど

意見言う
反対する

1116 転校する友だちへのプレゼントについて、花とディナーが話し合っています。

Hana: What should we get for Mayumi?
Dinu: I have an idea.
How about flowers?
Hana: Well, that's not a bad idea, but cookies might be better. I think she likes sweets better than flowers.
Dinu: You're right. Let's make them.

Work in Pairs

1. 上のスキットをペアで演じてみよう。
2. 巻末のロールプレイスシートを使って、A・Bの役割をペアで演じてみよう。

意見言う
I think
I have an idea.

意見反対
That's not a bad idea, but ...
That's not bad, but ...
You have a point, but ...
That's a good idea, but ...

4 Sounds 英語のひびき

200秒間の音声を読んで、Bのインタビューについて適切なことを話し合おう。

1. A: Did you hear Ken won the first prize in the speech contest?
B: We won the first prize!
2. A: Where did you get the shoes?
B: Where did I buy them? I bought them at Crown Shoe Shop.

www.hodai.co.jp 115

A あなたとBはクラスメイトです。同じクラスの Keiko が転校することになったので、二人でプレゼントをあげようと考えています。Bに意見を聞かれたらあなたのアイデアを伝え、二人でよいと思うプレゼントを決めましょう。

意見言う I think
I have an idea.

Idea Box

- handkerchief (ハンカチ)
- cookie (クッキー)
- flower (花)

B あなたとAはクラスメイトです。同じクラスの Keiko が転校することになったので、二人でプレゼントをあげようと考えています。まずAに意見を聞き、その後 Keiko のプロフィールをもとに、よりよいものを提案しましょう。

反対する That's not bad, but
You have a point, but
That's a good idea, but
That's not a bad idea, but

Idea Box

- towel (タオル)
- concert ticket (コンサートのチケット)

① 教科書本文の口頭導入

教科書を見せる前に、まずクラス全体にまゆみのことを脚色しながら魅力的に伝えたい。

Mayumi is a classmate of Hana and Dinu. They are all good friends. Mayumi is a very kind and nice girl. She is in the home economics club because she likes cooking and sweets. She often talks about good sweets shops with Hana and Dinu. She has to leave school because she is going to move to Hokkaido next month. So Hana and Dinu are thinking about her present.

その後、“Class, what should they get for Mayumi?”と投げかけてみる。生徒からあれこれと様々な提案をうける際に、“How about flowers?” “I think cookies are good for her.”など、提案する表現を確認し、生徒に使わせるようにする。

また教師も、“That’s a good idea, but she doesn’t like flowers so much.”や“That’s not bad, but it is expensive.”などと応答し、提案に反対する語句や表現を意図的に使い、導入を図りながら生徒とやりとりする。また、提案に対して“Why do you think it is good for her?”などと問いかけ、生徒に“Because she likes sweets.”などと簡単な英語で理由を述べるよう促し、必要に応じて全体で口頭練習し定着を図る。

② 教科書本文のリスニング

次に、花とディナーは何をプレゼントすることに決めたかを確認するため、教科書の音声を聞かせる。この段階では必要な語句や表現などの導入が済んでいるので、生徒は「何をプレゼントすることに決めたか」という意味内容にフォーカスして聞くことができる。

③ 教科書本文の理解の確認

ディナーの提案とそれに対する花の答え、その理由を確認する。この時点で教科書を開いて内容や語句、表現を確認する。

④ 教科書本文の音読練習

生徒が次の⑤の活動にスムーズに取り組めるように、必要な語

句や表現の口頭練習をしっかりとしておく。

⑤ ロールプレイスシートを使った生徒同士の言語活動

ロールプレイスシートを使い、生徒をAとBに分けて、ペアやグループでロールプレイを行う。

⑥ さらに自由度を上げたクリエイティブな言語活動

グループやクラス全体で、先生（ALTや学級担任）などに学年末にプレゼントするとしたら何がいいかをディスカッションする。

この活動では言語材料や語彙にこだわらずに、さらに贈りものも「歌を歌う」や「メッセージを送る」など必ずしも物に限定せず生徒に自由に発言させる。その理由や根拠と併せて意見を述べさせ、それぞれの学級でのベストな贈りものを考えさせたい。

4 評価規準の例

さらに、プレゼントを贈る対象の人を変えてALTと1対1でパフォーマンステストを行うこともできる。その際の評価規準は以下のようなものが考えられる。

(知識・技能) 課題を達成するやりとりにおいて、必要な語や表現を正しく使用することができる。

(思考・判断・表現) 課題を達成するために、場面や状況に応じた適切な言語材料を選択し、相手の意見を踏まえた適切なやりとりをすることができる。

(主体的に学習に取り組む態度) 課題を達成するために、聞き返しや確認をしながら、不明な点や相違点があったときは、粘り強くコミュニケーションをとり続け、相手の意見をよりよく理解しようとしたり、自分の意見を適切に表現しようとしたりしている。

5 おわりに

生徒の意欲や即興の発話力を効果的に向上させるためには、このような指導を単発で終わらせるのではなく、学期・年度で計画的、継続的に行うことが大切であることを最後に付け加えておきたい。

大阪府八尾市立高安小中学校

劉 崇治先生

(中学2年生担当)



本時の授業

BOOK 2 Lesson 3
5時間目
(USE Read)



◆授業を考えたときに大切にしていること

前は、「GETのページの授業づくりは料理づくりに似ている」という記事を書かせていただきましたが、今回のUSE Readのような内容読解の授業づくりは、劇作家の脚本作りに似ていると思います。

観ている人の想像力をかき立てる演劇は、観劇後に大きな感動を与えてくれます。それは読解の授業でも同じです。たとえばLesson 2のUSE Readで、「ドローンが穀物をmonitorする」という文があります。字面どおりには、「ドローンが穀物を監視している」ですが、それがどういうことなのかと子どもたちの想像力をかき立てるためにはどんな仕掛けが必要なのか、考えてみるといいかもしれません。そしてもうひとつ、面白い演劇には、役者がアドリブを行う余白が残されています。授業では、この余白こそが「生徒たちに学びを委ねることができる時間」です。ここで生徒たちが頭をたくさん働かせ、自分の言葉で表現することができる授業は、良い授業だなと感じます。生徒たちが観客になって想像力をはたらかせたり、役者になって余白の部分を楽しんだりすることができる、そんな脚本（授業プラン）を書くことができたらいいなと思っています。

授業紹介

授業開始

Lesson 3 New Words (5分)

導入

本時で扱う物語の世界への誘い (10分)

T: (男性が料理をしている絵を見せながら) "What is this man doing?"

S: "He is cooking."

(同じように、洗濯、手洗い、皿洗いなどの6枚のイラストを見せながら生徒とやり取りする。生徒は「あ、現在進行形の復習かあ」と思いながら "She is doing the laundry." "She is washing her hands." "He is doing the dishes." などと答えていきます。)

T: さて、ここで質問です。今の6枚のイラストに共通することは何でしょう?

(それまでは現在進行形のパターンプラクティスだと思っていた生徒たちの脳が一気に活性化します。「家事?」「いや、手を洗うのは家事じゃない」「...水!!!」「ほんとだ!」)

T: (間髪入れずに) "We use a lot of water every day, and we can use water anytime when we want to use. But, look at this." (SDGsの6番「安全な水とトイレ」をあえて日本語で見せながら) "You know this, right? SDGs. No.6. What's "安全な水", "安全なトイレ"? Is there any dangerous water in the world? Any dangerous toilets?"

ここで、指導書の「ワークシート Listen & Read編」に入っている「プチRead」の内容をもとにした英文の()に入る数字を考えます。

- About () people on earth do not have clean drinking water.
- About () people do not have good sanitation like toilets. など

SDGsの6番に関連するYouTubeなどの動画を観ながら()の中に入る数字を確認していきます。1つ1つのファクトが明らかになるにつれ、生徒たちの顔には困惑の表情が浮かんでいました。世界の人口の半分もの人がトイレなどの衛生環境がよくない状況で生活しているという事実はあまりにもショッキングだったようです。

ペアで読む

USE Read 段落① ~Q&Aとペアワーク~ (5分)

USE Readの段落①だけを30秒で読み、教科書を閉じてQ&Aを行います。今回は直前の活動で理解した内容が多く含まれているので英語で質問します。教師の質問に対して、生徒たちはペアでじゃんけんをし、勝った人が負けた人にこれらの質問の答えを伝えます。その後、指名をしてクラスで答えを共有します。自分の答えをペアの相手に伝える活動を入れることで、指名された人だけが英語を使っているという状況にならないように意識しています。

ジグソーで読む

USE Read 段落②③ ~ペアによるジグソー学習~ (20分)

手順

- ① ペアになり、プリントA (ワルカ・タワーの仕組み)、プリントB (ワルカ・タワーの長所) のどちらを読むか決める。
(※プリントAのほうが、読むのに少し時間がかかることを伝える。)
- ② Aを選んだ生徒は隣の教室に行って読み、Bを選んだ生徒はそのまま教室に残って読む。
(※それぞれの教室にいるメンバーで協力しながら読んでもよい。)
- ③ 15分間読んだ後、もとの教室に戻り、ペアの相手に理解した内容を伝える
(※プリントは見ない/自分の言葉で伝える/簡単なメモを作るのはOK)

◆本時のポイント

あとの展開が読めてしまう物語は、興味が薄らいでしまうことがあります。逆に、途中で予想を覆されたり、予想もしていなかった事実に驚かされるような物語は、最後までアツという間に時間が過ぎていきます。できれば、授業でも生徒たちにそういう体験をさせてあげたいと思っています。

現在進行形の復習だと思っていたら、そこに物語のテーマが隠されていたり、ペアの相手が伝えてくれる情報にアツと驚かされたり。そんなシーンを作り出すために大切なことは、「教材を用意すること」ではなくて、その教材で「生徒たちがどのように思考をするか」を想像することだと思います。生徒たちが想像力を働かせる授業は、きっと先生もその授業までに丁寧に生徒たちの表情を想像している授業だと思います。

Lesson 3 指導計画

GET Part 1, 2 (4時間)

▶1,2時間目

pp.40~43のListenやPOINT、Drillを使った活動を行います。

▶3,4時間目

Part 1,2の本文を理解し、表現を活用する活動を行います。

USE Read (2時間)

▶1時間目

USE Read本文を理解するためのペアによるジグソー学習を行います。

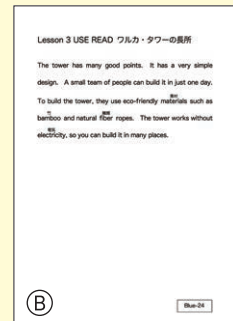
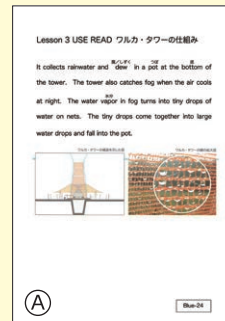
▶2時間目

USE Read本文を参考にして、Warka Water Projectについて語り、本レッスンで学んだことについて英語でコメントをする活動を行います。

文法のまとめ (1時間)

内容

- 1 プリントAには、USE Read 段落②とワルカ・タワーのイラストが、プリントBにはUSE Read 段落③が掲載されています。
- 2 プリントAを選んだグループには、ワルカ・タワーがどのように水を生み出すのかを文章からイメージさせます。読み取れた生徒からは「すごい!」「これ考えた人は天才!」という声が上がります。想像力がかきたてられた瞬間ですね。「ちなみにこれ、水を生み出す以外にもすごく大切な役割があるよ。ヒントは気候。」「あ!この屋根みたいになっているところが影になる!」「そう。」「すごい!!!」「その驚きを相手にうまく英語で伝えてね。」
プリントBを選んだグループには「a small group of peopleって何人ぐらいだと思う?」「10人ぐらい?」「In fact, ... just four!」「ええ!ほんとに?」「How much is it?」「けっこう高そうだけど...100万円くらい?」「約11万円!」「ええっ?」「そんな情報も入れながら相手にわかったことを伝えてあげてね。」
- 3 15分経って自分の席に戻ってきた生徒たちは、理解したことを各々の言葉で相手にアドリブで伝えます。“This tower ... catch ... fog ... and night ... cool down ... and water! ... Here.” “This is very useful ... because ... it is ... no ... electricity.” “And it is very cheap.” “And you can sleep under here.” 教室のあちらこちらから「へ〜!」「Really?」という声が聞こえてきました。



リテリング リテリングのモデル提示と練習 (10分)

お互いに情報を伝え合った後は、教師がUSE Read 段落①~③をリテリングします。その際に、話している内容とリンクするイラストや写真が用意できるとより良いです。生徒たちが読み取った内容を、比較的簡単な表現に置きかえてリテリングをしてみせます。「次回の授業ではこれを皆さんにしてもらいますね。では今から練習して良いですよ。」と言うと、生徒たちは授業の残り10分間で一生懸命練習します。すでにプリントAやプリントBの自分の担当だった部分はある程度言えるようになっていきますので、残りの部分をどう言えばいいかペアの友達に尋ねながら練習しているとアツという間に授業終了のチャイム。“Good-bye, everyone! Good-bye, Yoo-sensei.”とやりとりはしましたが、休み時間もまだブツブツ英語を言っている姿がありました。

授業
終了

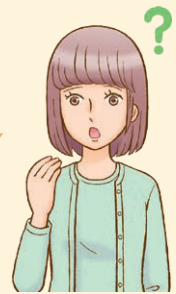
■授業を終えて

生徒たちに「余白」の部分委ねるとするのはとても勇気のいることだと思います。実際、「わからん」と活動に取り組まない生徒がいたり、思いがけず活動に時間がかかったりすることもあります。それでも、そういう時間が生徒の力を伸ばしている時間だと信じて、生徒たちのアドリブを楽しんでみてください。きっと生徒たちは、私たちの脚本をさらに魅力的なものにしてくれると思います。



Question

NEW CROWNのUSE Readは分量が多く、語句や表現、文構造や段落構成を説明していると、概要や要点を捉える問題に取り組む時間がありません。どうしたらよいでしょうか。



工藤 洋路(玉川大学)

Answer

Goalのタスクの概要理解や要点理解を中心に授業を行い、リーディングスキルを磨くことにフォーカスしてはどうでしょうか。



USE Readの英文はなぜ長い？

USE Readの分量の多さについては、現場の先生がその扱いに苦労されているというお話をよく聞きます。なぜこのくらいの分量の英文を教科書に載せているかをお伝えします。それは、リーディングのスキルを学ぶためです。もう少し具体的に言うと、説明文、物語文、意見文など、英語の文章のタイプに合わせて読むスキルを育成するために、ある程度の分量がある英文を載せています。短い文章は、文章タイプに合わせて読むというスキルの訓練には適さないからです。

USE Readで最優先することは？

このことを踏まえると、USE Readで最も優先度が高い活動は、STAGE 2のGoalで示されたタスクに取り組むことです。このGoalは、文章のタイプに合わせたタスク(例：意見文なら、「意見と理由」を読み取って書き入れるタスク)を設定しています。まずはこのタスクができるためのスキルを教えることを心がけるとよいでしょう。例えば、さきほどの「意見文」であれば、意見と理由を結び付けて読むために、“because”や“why”などの表現に注目して読むといった方法を教えることです。大切なことは、USE Readの英文を読むことで、リーディングの力を少

しでも向上させて、まだ見ぬ新しい英文に出会ったときに、自力で読めるための力をつけることです。実際の指導に際しては、1回目の読みで、Goalに取り組ませることのハードルが高いと感じた場合は、同じSTAGE 2にあるGuideを行うことで、Goalへの橋渡しが可能になります。このように、まずはUSE Readの主目的であるリーディングのスキルを磨くことにフォーカスします。そして、授業時間数に限りがある場合は、思い切って、STAGE 2のGuideとGoalだけを行うことで終えることも考えてはどうでしょうか。

Goalのタスクを達成した後は？

GuideとGoalに取り組んで、Goalが達成でき、そして、まだ時間がある場合は、STAGE 3の活動に進むことをお勧めします。STAGE 3は、本文を読んで(ある程度)理解した上で、今度は読み手として本文の内容に対して、何らかの反応(例：本文を書いた人に質問をする)をするタスクになっています。レッスンによっては、本文をかなり詳細まで理解しないと取り組めないものもあるかもしれませんが、多くの場合、STAGE 2のGoalが達成されていれば取り組むことが可能です。また、STAGE 3を行うことで、本文

を読み直すことになります。STAGE 2までに読んだ読み方とまた違った視点で読み直すことで、理解がより深まることが期待されます。また、繰り返し同じ英文を読むことになるため、英文で使われている単語や文法を覚える可能性も高くなります。結果、総合的な英語力の向上にも繋がります。

文構造や文法の説明は不要？

本文の中の複雑な文など、生徒が処理しにくい文について、その理解の確認や文法的な説明はもちろん行っても構いません。ただ、すべての文に対してこれを行うと時間がいくらあっても足りません。ここでも、優先順位を考える必要があります。例えば、Goalのタスクを行う上で、しっかり理解する必要がある文については、その文の構造を把握しているかを確認することは大事な指導になります。文章の要点や概要の理解に大きく関わる文はじっくり指導する一方で、それ以外の文には少し目をつぶることも必要です。1つのUSE Readの文章の中で2、3文程度しか細かく文法的にチェックしていなくても、1年間という長期的なスパンで見ると、かなりの数の文を詳細に扱ったことになります。すべてを一律に扱うのではなく、メリハリをつけて指導をすることが大切です。



Lucinda Okuyama (Tokyo University of Foreign Studies)

In 2021 I tried doing 'Stand Up Paddle Boarding' (SUP). At first it was just for fun, but later I discovered the world of SUP racing and threw myself into it. I joined a SUP club, bought specialized equipment, and participated in a few social races. Because I was new to the sport, I made many mistakes which were very public. When I tried a new turn, it was scary and difficult. Everyone witnessed me falling into the water when I lost my balance. It was embarrassing. This public humiliation inhibited me from taking risks and I started to play it safe. I felt insecure and self-conscious.

This made me miserable. I realized that I had to move out of my fear zone, where I cared about what others thought of me into my growth zone where I could set my own goals and conquer my objectives. This new sport gave me an empathetic understanding for the learners who attend my language classes. They too need vast amounts of social courage to speak English and at times fail in front

of their peers. I believe that teaching educational social skills and emotional coping skills is just as important as teaching English. So, I shared my SUP reflections with my students because of the strong parallel between my SUP journey and their language learning journey.

As a teacher it is important to have empathy for students and help create an atmosphere of growth and discovery as opposed to performance and competition. Students can then relax and experiment with the new language tools. Together we make the class a safe place to experiment with language and move out of our comfort zones. As I explained this, several of my students nodded in agreement. One in particular noted that striving for perfection is stifling but being in the growth zone accelerates learning. Students seemed more at ease with this approach. Teaching this in my class has been rewarding and has changed the atmosphere in my class significantly.



リクツで納得! 学校英文法の「文法」 巨理 陽一 (中京大学)

この際お互いの関係をハッキリさせましょう



前回に引き続き、関係代名詞節について取り上げたい。学習者にとって厄介なのは、構造の複雑さもさることながら、who, which, thatという複数の関係代名詞を使い分けなければならないことだ。いわゆる先行詞がモノを表しているか(例えば a book which has beautiful pictures)、人を表しているか(a friend who can speak Spanish)でwhoとwhichの使い分けを理解したとしても、どちらにもthatを使えるのだとすれば、なぜわざわざwhoやwhichがあるのか疑問に思っても不思議はない。

学習者をさらにイラつかせるのは、その関係詞を明示しなくてよい場合(例えば the country I want to visit)があるということだ。これは、見えない関係詞があると考えて、専門的には「ゼロ関係詞」と呼ばれる。全ての関係代名詞節でゼロ関係詞が使えるわけではないのだが、「要らないのなら最初からごちゃごちゃ言わなくてよかったじゃん!」とフテクサれてしまう学習者が現れてもおかしくない。今回は、Longman Corpusに基づく Biber et al. (2021). *Grammar of Spoken and Written English*. John Benjamins. (特に pp. 598 - 624) を参照し、実際の使われ方の違いから複数の関係代名詞の存在とゼロ関係詞に納得を与えてみよう。

まず前提として、会話では後置修飾の使用頻度自体が比較的低いこと、関係代名詞節がよく用いられるのは書き言葉であることを確認しておかなければならない。

中学校で扱う制限用法の範囲に限って言えば、関係詞間の比較では全てのジャンルを通じて使用頻度が高いのはthatとwhichである。これは、事物を表す名詞のほうが詳しい説明を要求して関係代名詞節を取りやすいことによる。whichは学術的文章で最もよく用いられるが、会話ではあまり登場しない。thatはフィクションと会話で最もよく用いられる(ただしニュースではthatよりもwhichやwhoが用いられる)。ゼロ関係詞はフィクションで最も使用数が多いが、関係詞間で比べた割合としては会話での使用が最も高頻度となる。このことからthatとゼロ関係詞は、whで始まる関係詞よりもくだけた言葉づかいの印象を持つ。つまり関係詞の使い分けに納得を得るためには、人とモノの区別だけでなく、ジャンルやモードの違いを見る必要があるのだ。実際、フィクション以外の書き言葉で人を先行詞とする場合にはwhoが約7~9割を占めるが、会話ではそれが5割以下となり、thatが3~4割を占めるようになる。

ゼロ関係詞ではもっと端的に統語的な分業が使用頻度に反映されている。ゼロ関係詞の特徴は、

関係代名詞が主格以外の場合に限られることにある。それゆえwhoは関係代名詞が主格の場合に最もよく用いられ、このデータの中で関係代名詞whoの使用のうち95%以上を占めるという。逆にゼロ関係詞は主格以外の場合の8~9割を占める(whomとthatがそれぞれ1割程度)。

whichとthatの比較については、違いが最も顕著にあらわれるのは制限用法と非制限用法の対比であり、これは高校を待たねばならない。それでも以上の「棲み分け」の事実から、各関係詞が英語話者にとって現にどういうものとして存在しているかを一部であっても伝えることができるだろう。

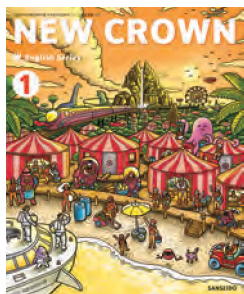
一方で、たとえ頻度が低くても、話すことの言語活動において関係代名詞を使ってもらいたいという先生方の声も無視はできない。応用ではあるが、「the one who ...」という表現を使った自己アピールや他者の賞賛はどうだろう。例えば Taylor Swift が「You Belong With Me」で「... I'm the one who understands you.」と歌う時、そこには単に I understand you. と伝えるのとは異なる「私こそが」という切ない気持ちが入められている。そういう主張に使えるとわかれば、書き言葉だけのものとは思わなくなるだろう。関係代名詞を学習者にとって関係のあるものにできるかどうかこそが勝負なのだ。

\270万人が利用中!/
AI英語学習プラットフォーム

エービーシード
abceed

その英語を、口に出したくなる

三省堂の教科書・教材・辞書がAI英語学習アプリ「abceed」に対応!
GIGAスクール構想に対応した新しい英語学習のスタイルを提案します。



音読で教科書の学びをもっと深める

abceedでは、教材の英文をそのまま音読やディクテーションなどでフル活用できます。リアルタイムに判定が返ってくるので、目標に向かって何度も自然に音読をくり返すことができます。



例文を音読



通し読みで音読



ディクテーションでは
音声を聴いて単語を選択

もちろん日々の学びをしっかりサポート

abceedで、教科書本文の学習(音声/辞書引き)も、
新出単語の学習もバッチリです。 **もちろん管理画面つき!**

課題の配信・提出管理もかんたんです

- ・教材を選んで出題範囲と学習モードを選択するだけ。音読課題や単語テストなどを、すぐに配信できます。
- ・管理画面では、音読課題の達成度や発音した音声ももちろん確認できます。
- ・課題の提出状況はリアルタイムで更新されます。クラスごとの提出状況はエクセルで書き出しもできるので、集計・管理もスムーズです。



教科書本文



新出単語

abceedの英語学習は

楽しい!

導入校の声を公開中 ▶▶▶ <https://lp-school.abceed.com>



Globee abceed運営会社:株式会社Globee

価格、サービスの詳細は
お近くの弊社担当者までお問い合わせください。

三省堂 教科書・教材サイト

<https://tb.sanseido.co.jp/>

▶▶▶ 「ICT実践事例紹介」・「授業レポートプラス」公開中!

三省堂

〒102-8371 東京都千代田区麹町5-7-2

※この冊子は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って配布しております。